
狂った世界を救った偽善者

まこっちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

狂った世界を救った偽善者

【Nコード】

N1339L

【作者名】

まこつちゃん

【あらすじ】

2196年世界は狂っていた。突如現れた、魔王を倒すべく勇者になったクロは世界を愛し、憎み、手に入れようとする。

プロローグ

2196年

世界は

狂っていた。

3年前に終わった第三次世界大戦の影響で石油や燃料を使いきり主な機能は停止した。

奴隷制度の復帰、民主主義の廃止、と世界は壊れていく一方だった。さらに、終戦した理由は突如発生した黒い闇から現れた魔物による侵略だ。

本当に世界は壊れていた。

魔物の侵略と同時に人間は魔法を手に入れた。だが、使えるのも人類の100分の1程度だ。さらに、強力な魔法が使えるのは100人程度だ。

だが、魔物の王の魔王を倒すべく勇者として魔法を持っている者に魔王を倒す旅に出してもらう。

勇者という名の使い捨ての道具で・・・

そんな勇者として選ばれた俺
神谷 クロの話だ。

第一話

「はぁ・・・はぁ・・・よし今日はこれくらいにしよう」

いつものように庭で稽古をしていた。

親は3年前の戦争で死に、今は一人暮らしをしている。この世界は弱肉強食の世界になった。

ギルドに行きクエストで魔物を倒し生計を立てている。

学校はあるのだが、金がないために通ってない、だが、友達と呼べる者はちゃんという。

この国、元日本の元東京のノル国は今年勇者を選ぶらしい、3人の勇者を出す。

あんなのただの使い捨ての人形じゃねえか。

「1時か、そろそろクエストに行くか」

ドアに手をかけたその時、

バン！

ドアが開きそこに立っていたのは、ノル国の城の傭兵だった。

「離せ！！俺に何するんだ！！」

王室の前まで連れてこられた。そこには、たくさんの傭兵がいた。

「静かにしろ！！王の御前だぞ！！」

一人の傭兵が怒鳴った。すると、王室のドアが開きそこには、ノル国の王が座っていた。

「よくぞ来てくれた。感謝する」

「・・・そういうのはいいから本題に入ってくれ」

こういうのだら下の手先なんだよな。

「貴様！！王に向かって何言う口をきく！！！！」

「よい、これくらい威勢がないと到底この役は務まらない。・・・単刀直入にいうと勇者になってもらった」

「はあ！！待ってくれ俺は勇者になる気はねえ！その前に魔法が使えねえよ！！」

「これは決定事項だ。それに貴様のことは徹底的に調べて決めた。貴様は魔法が使える」

連れてこられたのは城の地下らしい、そこには一人のメイドがいた。

「今からあなたの魔力を上げる儀式をします。そこにある魔方陣の上立ってください」

そこには、青白く光っている魔方陣があった。

「では、行きます」

すると全身の血が逆流するような感覚に襲われた。気持ち悪く、吐き気がした。

「終わりました。何か体に変化がございますか？」

「ああ、確かに変化があった。・・酔った」

「・・違います。魔法の法です」

「わかってます。・・初めから気付いてないのなのでよくわかりません」

「少し、失礼します」

すると、メイドはナイフを出し俺の手首を切った。

「！！、何するんだ！！殺す気か！！！」

「手首を見てください」

手首の方を見ると傷口が無くなっていった。

「！！なんだ俺は治癒系の魔法が使えるのか？」

「いえ、あなたは闇系の魔法が使えます」

「闇ってあの闇か？人間は誰も使った事のない闇か？」

「そうです。私も初めは驚きました。しかし、あなたの闇が血だけが特化していて他の魔法が使えません」

「血だけ？」

「はい、血だけです。だから、さっきの傷も治りました」

「鍛えたら他のも使えるかな」

「さあ、わかりません。では、次は武器を選んでください」

連れて来られたのは大きな武器庫だ。

「この中から選んでください。中には呪われたものもあります」

「そんなもん処分しろよ」

ガサガサ

「お！これなんていいな！」

「それでいいのですか？他にもいいのがありますのになんでナイフなのですか？」

そう俺が選んだのはサバイバルナイフみたいな形のナイフで黒光りしていて無駄な装飾がないナイフだ。

「いいんだ、ナイフは慣れてるから」

「・・・やはりと言ったところですか」ボソッ

「ん？なんか言ったか？」

「なんでもございませぬ。では、次にお金です。ここに20金貨ほどあります。これは軍資金です」

「これをもたらった魔王を倒しに行けっことか。・・・いいだろ、暇だしちよっくら魔王でも殺してくるわ！その前に王様に頼みがあるから案内してくれないか？」

「はいわかりました」

王室に戻ってきた。

「頼みとはなんだ？」

「頼みというのは全国に勇者が出ることを発表するのがあるよな？それに俺は登録しないでくれ」

王の周りにいる傭兵がすごい殺気で俺をにらんでくる。
あれか、タメ口だからか？

「なぜだ？勇者はどの国からも出すことが決まっている。それに勇者になれば、英雄になれるのだぞ」

「だから、魔王は殺しに行くけど、登録するところに他の人を乗せてくれ。それに俺は、英雄や勇者に興味がない。反吐が出る。」

「理由はなんだ？ 場合によっては断る」

「理由はその方が動きやすいし、俺は俺の作戦がある」

まあ、それは嘘で作戦なんてねえけどな。

「わかった。その頼み承諾した」

「ありがとうございます。では、俺は魔王でも殺してきます」

「頼むぞ 神谷 クロ。」

城からでていったん自分の家に戻った。

「さて持っていくものはこれでいいか。・・・よし、北にあるカ
ルマ国目指すか」

第一話（後書き）

文才が欲しい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1339/>

狂った世界を救った偽善者

2010年10月15日22時37分発行